



数日降り続いた秋雨があがり、束の間の晴れ間が広がった 9 月最後の日曜の朝、どこからか蝉の声が聞こえました。一瞬、夏の風情がよぎります。一段とひんやりしてきた朝夕の空気に秋の訪れを確かに身体に感じながらも、世界はカレンダーで動いているわけではないのだなあ、とあらためて感じた朝でした。

学園祭



今年の学園祭は、8 月 28 日、29 日に行われました。学園祭実施については、まずは 9 年生クラスで話し合っ て決め、そして 7、8 年生とともに実行します。やはり 9 年生クラス全体の決意と協力がなければ、下級生を引 っ張って実施することは簡単ではありません。私のクラ スは、通常登校が始まると、再度クラスで話し合っ て決めました。今は実施できて本当にほっとしています。今年度は、規模は縮小されたとはいえ、これまでのこ とを踏襲できない部分があり、生徒たちはいろいろと話し合いました。下級生に楽しんでもらうことを目標と決 め、3 密を避けることを基本とし、催し物のこと、人の 流れのこと、時間のことなどを話し合っていました。その様子を見て、これまで先輩たちは何事もなく学園祭を 実施していたように見えたけれど、きっとどのクラス も、意見の相違を乗り越えながら実施していたのだと実 感しました。

いろいろ難しいことはあるとはいえ、学園祭は生徒た ちにとってやりがいのあることでした。毎年、7 年生 は、満を持しての参加です。今年も皆とても熱心に学園 祭の準備をしてくれました。学園祭前日の夕方、教室か らキャーキャーと楽しそうな声が聞こえ、皆で縁日や迷 宮の十字路を体験していたようでした。中学生でもこの ような素朴な遊びで、あんなに楽しめるんだと感心しま した。もちろん、自分たちが考え作ったものですから、 愛着はひとしおだったと思います。

そして迎えた学園祭当日。皆少し緊張した面持ちでし たが、トップバッターの 4 年生が、にこにこしながら何 度も楽しんでくれて、皆はさらに活気づいていきまし た。小さい子どもたちは、お兄さんお姉さんたちの説明

をワクワクしながらも注意深く聞き、そして、ドキドキ しながら暗い迷路の十字路に入っていくのがよくわかり ました。しゃべりすぎて声が枯れた 9 年生もいまし た。また 1 年生にとっては、初めての十日市場校舎体 験でもありました。帰る時に、「また遊びに来るね～」 というかわいい声が聞こえてうれしくなりました。1、 2 年生の保護者の方たちは、催し物を楽しんで下さり、 カフェのケーキや書道部のうちわも買ってくださいま した。そうやって、皆さんに楽しんでもらっている裏で、 景品が予想以上に少なくなり、生徒たちは必死に作っ ていたそうです。焦りながらもピリピリせずに、臨機応変 に対応できたのは、素晴らしいことでした。やはり本番 は、何が起こるかわからないものです。そのためか、初 日が終わると疲れた様子の生徒もいました。

そして 2 日目。何と言っても、卒業生との再会はい つも楽しみで、卒業生同士も旧交を温めていました。伏 見先生を中心に皆で何曲か歌を歌う時は、学園を一つに 感じます。素朴なやり方ではあるけれど、こうやって一 つになれる学園とは素敵なおとこだどつくづく感しま す。

先生に「早く学園祭に行かなくていいの？」と催促す るほど楽しみにしていた子どもたち。家に帰ってから縁 日や迷路を再現して遊んだり、絵で表現してくれた子ど もたち。1 年生からは絵のプレゼントをもらい、保護者 の方からは「応援しています。」と言って頂いたり、差 し入れを下さった方々。ありがとうございました。皆さ んに応援されてできた学園祭でした。7 年、8 年、9 年 生、みんな協力してよくやり遂げました。9 年生を誇り に思います。

(9 年生担任 小林裕子)



9月6日に、大人のためのシュタイナー学校体験授業を開催しました。教科書もテストもないシュタイナー学校の授業。人間の成長に沿ったカリキュラムは、子どもたちの内側にある学びたい気持ちを大切に育みます。今回、低学年の「フォルメン」と高学年の「物理」の体験授業が行われました。フォルメンとは、線を描くことでものの形を理解する芸術教育で、シュタイナー学校では必須科目のひとつです。この「フォルメン」の体験授業を受けた学園保護者が感想を寄せてくれました。

大人のための体験授業「フォルメン」



フォルメンを描くときに、緊張感－集中－落ち着き－静けさ－うまく思うようにいかない悔しさ－充実感－楽しさ－そして周りの進み具合を気にする焦りなどを感じ、少し子どもの時にしていたお習字を、思い出したのです。

授業が終わるころ、末永先生は「何か感じましたか？」とおっしゃいました。私はとても充実した静かなときを味わっていました。先生はさらに、「もしかしたら、帰ってから、明日の朝か、もっとその後に、何かを感じるかもしれない」とおっしゃいました。何か起こるのだろうかとかかなり期待大きく楽しみにしていました。

数日後、フォルメンを再び思い出したのです。そういえば「そうだ、あれから物の曲線が目によく入ってくる。木の半分も同じ形にしてみたくなったり（線対称）、きっとこれが私のフォルメンの“その後”なのだな」と。「大好きな光の刺繍模様も、もしかしてフォルメンなのかな？」とも思いました。

今回はどこからこんなにフォルメン授業を受けてみたいという人が集まってきたのでしょうか。皆、こんな世の中の点のようなシュタイナー教育に気づいて、集まって、一生懸命大人が味わおうとしていました。

大人の体験授業というのは、私にとっては、子どものやってきた事を体験すること、やっている事を同時に体験できるところが魅力です。

何をやっているのかを知りたいというよりは、その時間や空間や気持ちなどを私も感じてみたいからなのです。

そして、在学の保護者としては、体験授業をしてくださっている先生のお人柄のようなものを知ることができることも嬉しいです。それに、私のことを知っていただけることも嬉しいことです。

先生の言葉だと、シュタイナー教育がとてもわかりやすいのです。だから先生方の体験授業や、書かれたものを読むのが理解しやすいです。野ばらでいつかフォルメンの特集もお願いしたいくらいです。

フォルメンを知りたくてしょうがなかった気持ちは、体験授業で満足しました。でもそれ以上に、さらに、フォルメンを知りたい気持ちが体験授業をして増えています。

コロナ禍ですが、このような体験授業を企画して下さった皆様、ありがとうございました。

(2年保護者 佐藤しほ)

自粛中の学校がお休みの期間、我が子にフォルメンの課題が出ました。

親子で先生に言われた線を空中に描いてみた途端、とても大げさに人には言えない感覚ですが、私にフォルメンのスイッチが入ってしまったのです。そのような衝撃を受けたのです。

2年生担任の神田ひとみ先生にフォルメンについてお聞きしてみました。線の練習、手首を滑らかにする練習のように思っていたフォルメンに、ありとあらゆる作用が隠されていることにお聞きしました。驚きました。フォルメンにはなんてたくさんの要素が含まれているのでしょうか。

その時ちょうど、末永先生の、フォルメン体験授業があることを知り、是非受けたいとずっと狙っていました。特に低学年のフォルメンということで、我が子が2年生なのでますます興味深いものでした。

実際の体験授業の当日は、子どもたちの教室で体験できて、その雰囲気をも、丸ごと大人も味わえます。

なるほど、授業という形で、流れとともに受けていると、フォルメンで描く線も物語の一場面であったりしました。

先生は物語を語ってくださいます。その途中一息ついたところで、まるで、、、多分、、、書いたフォルメンが、キノコ狩りのキノコに見えたり、クリスマスのもみの木に見えたりするのです。

体や指を使って空中に書いて紙に描いて、それからやっと実際にミツロウクレヨンを持って描くというのは、、、慎重で、描くイメージが持ちやすかったです。まずイメージを持つということは、いろいろな日常の場面にも（何か描くにしても－作る－考える－発言するにしても）良いな、、、と思いました。子どもたちもこういう練習を繰り返して、何か行動したり、発言したりするようになるのかなと思いました。

9月12日に、学園初の試みとして、2014年に二期生を送り出した神田昌実先生による「豊かに育つ子どもたちの話」講演会をオンラインにて開催しました。今年二十歳になった教え子たちもオンラインで登壇し、残暑厳しい初秋の夜に、身も心も熱くなる講演会となりました。

初めてのオンライン講演会「豊かに育つ子どもたちの話」



初めは「シュタイナー教育だけが絶対的なものではない。家庭や学校や社会の中で目の前の子どもに対する真摯な思いをもって教育に携わる人がいれば、きっとその子は健全な大人になると思う。しかし、シュタイナー教育の人間観は、一番人間を健全に育てる核を持っていると私は感じている」と話しました。

そして、「人間が育つ」とは「大いなるものの力に導かれて自ら育つのであり、周りの大人は環境に過ぎない。大人たちは間違いもするだろうが、子どもたちは大人の間違いなどをものともせず、善き方向へ進んで行く」ということを話しました。しかし、「だからこそ私たちは、模倣されるに値する人間になる努力を常にしながら子どもの前に立たなければいけない」のです。

その後、「横浜シュタイナー学園がお引き受けする第2七年期にご家庭で心がけていただきたいこと」も話しましたが、話しながら（入学説明会のようになっているな。軌道修正しなきゃ！）などと考えて焦りました。そこに「9年間担任制の良さ」について司会者より絶妙な質問をいただいたのでそちらに話の方向を変えることができました。

一人の担任が小学生から中学生までの同じ子どもたちの成長を見続けていくことは、確かに担任にとっては大変です。毎年新しい教科を研究して子どもたちに生き生きと伝えなければいけませんし、子どもたちの年齢によって自分自身を変える必要もあります。しかし、子どもたちにとっては、長い目で観てもらえ、他人と比べられることを知らずに育つことができます。保護者もクラスの子みんなを自分の子のように思いながら一緒に育てていくつもりになり、学校と保護者の協力が強固になります。

「少ない人間関係しか体験していない子どもたちが社会に出た時に問題はないですか？」という質問にもこの時答えました。「子どもたちは大人の背中を見て育ちます。横浜シュタイナー学園の大人たちは人間関係を作る努力をいつもしています。9年間一緒ですから諦めたら進んでいけません。『人間関係は諦めたり、見て見ぬふりをしたりするのではなく、いつも最善の努力を必要とするものなのだ』ということ、つまり『小さくても深い人間関係の築き方』を、彼らは卒業までに身をもって学びます。それは、いつも人に対して誠実に向かう基礎になり、豊かな社会性へと成熟します。」

そして、ついに受講者の方々が興味津々で待っていた二十歳になった二期生との対談が始まりました。「学校生活は今思うとどんなだったか」「外に出てみて感じた問題はあったか」などいくつかの質問に彼らは誠実に答えてくれました。

3人とも「学校は楽しかった。行きたくないことなんてなかった。」と言ってくれたのでほっとしました。なぜなら学校が楽しいことが、学びの大切な土台になるからです。そして彼らが、「9年間一緒に過ごした仲間は、友だちというより家族のようで、空気のような関係ができています。そのような仲間がいることは、自分に帰る場所を与えてくれ、何があっても大丈夫だという安心感になっている。」と言った時、前述の『深い人間関係』は外に向かうだけでなく、行きつ戻りつしながら波のように彼らの内面を熟成させるものなのだと知りました。

結局、彼らの印象に残っていることは在学中にどんな大人に出会ったかということに集約されていたように思います。シュタイナーが言っている「教師は何をどのように教えるかよりも、どんな人間なのかが重要なのです。」ということの真実を実感しました。そして、やはりシュタイナーが言っている「完璧な人間はいません。しかし何かをした後に、『次はもっと良くやろう』という意志を持つことが大切なのです。」ということをこれからも実行していきたいと強く思いました。

(6年生担任 神田昌実)

* 写真は、今回登壇してくれた二期生が7年生だった頃。

インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

～事務局より～

ご支援ありがとうございます。
大切に活用させていただきます。

(順不同・敬称略)

羽場祐人・由美、星の金貨
学園にお気持ちを寄せてくださり、
心より感謝申し上げます。

NPO 会員募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同し、活動への参加、支援を希望される方は、どなたでも NPO の会員になれます。会員は総会への参加の他、紀要冊子「野ばら」(年 1 回発行) とニュースレターをお送りします。また、学園主催の各種催しに会員価格で参加できます。正会員と賛助会員からお選びいただけます。

<入会申し込み>

詳細は学園事務局までお問い合わせください。

☆ 星の金貨より ☆

今年も " くるみのアドヴェントカレンダー " 作りのための小物キットをご用意します。

スタッフが心を込めて選び手作りした、愛らしい小物たちです。

1 セット 3,500 円、お渡しは 11 月 5 日頃の予定です。

数に限りがありますので、お一人様 1 セットとさせていただきます。

小物の入れ物になる " くるみ " (24 個) は、各自でご用意ください。

二つに割ったくるみの殻はペアにしておいてください。

キットの内容

* 24 個の小物

* 赤いリボン

* 接着口ウ



お問い合わせ ☆ 星の金貨

hoshino.kinka7@gmail.com

SNS はじめました!

横浜シュタイナー学園

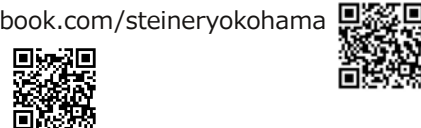
Facebook 公式ページと Instagram 公式アカウントを開設しました。

FB

<https://www.facebook.com/steineryokohama>

Instagram

yokohamasteiner



ぜひ、フォロー、お友だちへのご紹介をお願い致します。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替: 00260-0-130702

加入者名: 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行: 店番 029 支店名 029 店 (セーラー店) 当座 0130702



横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第 133 号～

2020 年 9 月 29 日発行

編集: 広報の会

発行: NPO 法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘 3 丁目 1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします